

# 増楽遺跡

Zoura Site The 16th  
excavation report

浜松市教育委員会

2023年3月

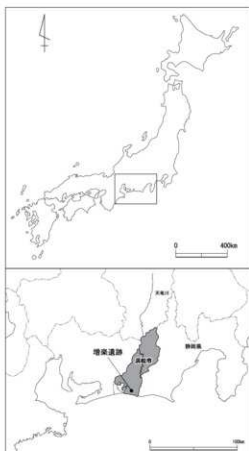
Hamamatsu Municipal Board of Education, March, 2023





## 例言

- 1 本書は静岡県浜松市南区若林町 1748 で実施した増築遺跡 16 次調査の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、可美小学校校舎建て替え工事に先立ち実施した。現地発掘調査及び整理作業・報告書刊行作業は、浜松市（学校教育部教育施設課）の依頼を受けて、浜松市教育委員会（浜松市市民部文化財課が補助執行）が実施した。
- 3 発掘調査にかかわる費用は、全額浜松市が負担した。
- 4 発掘調査の面積と期間は、以下の通りである  
調査面積 160 m<sup>2</sup>  
現地調査 令和 3 (2021) 年 11 月 30 日～12 月 14 日  
整理作業 令和 4 (2022) 年 4 月 1 日～  
令和 5 (2023) 年 3 月 24 日
- 5 発掘調査及び本書の執筆・編集は、川西啓喜（浜松市市民部文化財課）が担当し、岡本佳枝・深見亜衣子（浜松市市民部文化財課）が補佐した。
- 6 調査の記録、出土遺物は浜松市市民部文化財課が保管している。
- 7 本書における方位は真北、標高は海拔である。
- 8 本書における遺構の略記号は以下のとおりとする。  
SD：溝 SK：土坑 SE：井戸 SP：小穴



## 目次

### 例言・目次

1 遺跡の概要と調査経緯 .....	1
2 調査の概要と基本層位 .....	2
3 検出遺構 .....	2
4 出土遺物 .....	4
5 結語 .....	4

### 図版

## 1 遺跡の概要と調査経緯

**遺跡の概要** 増楽遺跡は、浜松市南部の海岸平野上に位置する古代～中世の遺跡である。この海岸平野の北部には三方原台地が広がり、台地の南端部には、縄文時代に海進により形成された海食崖が存在する。その後、海水面の低下に伴い、海岸平野には浜堤が形成され、浜堤間には湿地が広がる景観が生まれた。海岸平野上には東西方向に6列の浜堤列が発達し、増楽遺跡は北から数えて3番目の浜堤列上に立地する。最も内陸側の第1浜堤列は、約8,000～7,000年前に形成され、増楽遺跡の立地する第3浜堤列は、約5,000年前に形成されたとみられる。増楽遺跡と同じ浜堤列上には日晩遺跡、増楽町村中遺跡及び若林町村西遺跡などの古代～中世の遺跡が展開している。これらの遺跡は、現在、遺跡名を分けているが、一連の集落であったと考えられる。

**調査の経緯** 平成30(2018)年に浜松市学校教育委員会教育施設課より、可美小学校の校舎建て替え工事が計画された。この計画を受けて、対象地内における遺跡の埋没状況を確認するため予備調査(9次調査)を実施したところ、計画地の北西側の一部において古代の遺物が確認された。こうした結果を受けて、遺跡の取扱いについて協議を行った結果、建設工事により遺跡の保護が図れない部分について、記録保存のための本発掘調査を実施する運びとなった。

本発掘調査は、浜松市(学校教育委員会教育施設課)の依頼を受けて、浜松市教育委員会(市民部文化財課が補助執行)が実施した。現地調査は令和3(2021)年11月30日から12月14日にかけて実施した。調査対象面積は約160㎡である。

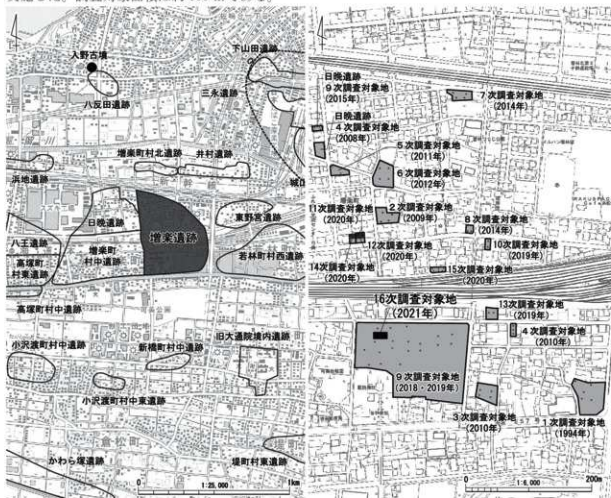


Fig.1 増楽遺跡周辺の遺跡分布及び16次調査区位置図

## 2 調査の概要と基本層位

**調査の概要** 今回の発掘調査は、校舎建設地の一部を対象に実施した。調査区の北側は、擾乱が顕著であったが、調査区の南側を中心に基盤層を確認した。遺構は、調査区外に延びるものや擾乱の影響を受けているものが多く、全容を把握できたものは少なかったが、溝等を検出した。遺物は、7～8世紀代のものが中心であるが、わずかに中世の遺物も確認された。

**基本層位** 調査区内における基本層位は次のとおりである。上層より1層：擾乱・盛土、2層：褐色砂（旧表土）、3層：暗褐色砂～暗灰褐色砂質シルト（古代の遺物包含層）、4層：灰黄色砂（基盤層）の順に確認した。なお、土層断面を確認したところ、一部、3層（遺物包含層）より掘り込まれた遺構も見られたが、4層（基盤層）から掘り込まれたものが中心であることから、遺構検出は基盤層直上のみで実施した。

## 3 検出遺構

**検出遺構の概要** 調査区内全域において、溝5条、土坑3基、井戸1基、小穴3基を確認した。遺構内からの出土遺物は乏しく、また、遺物を伴わない遺構も見られたが、遺物の年代と埋土の特徴等から7～8世紀代の遺構と考えられる。

**SD01** 調査区の南東隅で検出した南北方向に延びる溝である。SD01は、南側は調査区外、北側は擾乱の影響を受けていたため全容は不明であるが、調査区内で延長2.5m、幅1.5m、深さ0.3mを検出した。遺物は小片のため図化できたものはなかった。

**SD02** 調査区の中央部で検出したおおむね南北方向に延びる溝である。SD01は、南側は調査区外、北側は擾乱の影響を受けていたため全容は不明であるが、調査区内で延長4.5m、幅1.9m、深さ0.2mを検出した。遺物は須恵器の碗（Fig.3-2）や土師器が出土した。

**SD03・SD04** 調査区の南西部で検出した浅い溝である。いずれの溝も北東から南西方向に延びており、擾乱や調査区外に延びているため全容は不明である。また、いずれの遺構内からも遺物は出土しなかった。

**SD05** 調査区の中央北西側で検出した東西方向に延びる溝である。検出面での規模は、延長4.5m、幅1.3m、深さ0.2mである。遺物は図化できたものはないが、須恵器の小片が出土した。

**SK01** 調査区の南東隅で検出した土坑である。大半が調査区外に及んでいるため規模は不明であるが、調査区内で長辺2.6m、短辺1.1m、深さ0.3mを検出した。遺物は図化できたものはないが、須恵器と土師器の小片が出土した。

**SK02** 調査区の中央北端で検出した土坑である。北側は調査区外に及んでいるが、長辺3.4m、短辺1.2m、深さ0.48mを検出した。遺物は図化できたものはないが、須恵器の甍片が出土した。

**SK03** 調査区の中央部で検出した土坑である。東側をSD02に切られているが、直径1.5m程度の隅丸方形を呈するとみられる。遺物は須恵器の碗（Fig.3-1）や土師器が出土した。

**SE01** 調査区の南西隅で検出した素掘りの井戸である。SE01の南側は調査外に及ぶため全容は不明であるが、検出面で確認した規模から直径約4.5m、深さ約0.6m、円形を呈すると考えられる。なお、遺物は出土しなかった。

**小穴** 調査区の中央部で小穴3基（SP01～03）を確認した。いずれも直径0.3～0.4m程度の円形を呈する。なお、遺物は出土しなかった。

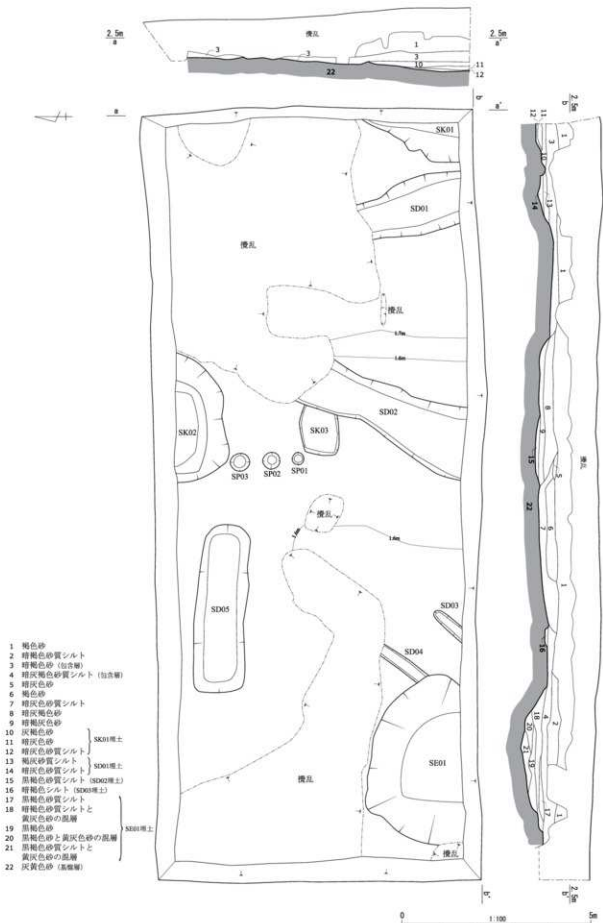


Fig.2 調査区全体図及び土層図

## 4 出土遺物

出土遺物を Fig.3 に示した。

1～5は須恵器、6は陶器である。  
1はSK03から出土した碗の口縁部、  
2はSD02から出土した碗の底部である。  
3は有台坏身の底部である。  
底部は高台よりやや下に張り出した形態である。4・5は蓋である。  
いずれも天井部を欠損しているが、  
摘蓋と考えられる。6はすり鉢である。  
調査区南壁の8層より出土した。内面には荒いハケ目が見られる。1～5は7～8世紀、6は中世の遺物と考えられる。

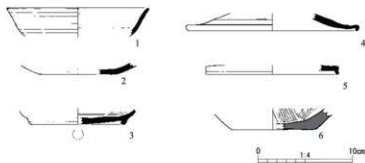


Fig.3 出土遺物実測図

## 5 結 語

今回の発掘調査の結果、対象地内は大きく既存校舎の攪乱の影響を受けていたが、大型の井戸等を検出し、7～8世紀代を中心とした遺物を確認した。しかし、建物跡が検出されず、出土遺物に甕等の煮炊き具が見られないことを踏まえると、集落の縁辺部に該当すると捉えられよう。なお、今回の調査地は西側に向かって緩やかに低くなることに加え、過去に当該地の西側で実施した調査では、いずれも遺構・遺物が希薄であった。一方、北側で実施した調査では、限られた調査面積ではあるが、古代の遺構・遺物が確認されていることから、集落の中心部は当該地の北側に存在すると見られる。

また、明確な遺構は確認されなかったが、中世の陶器がわずかに出土した。増築遺跡ではこれまでの調査において、中世の遺物が確認されており、当該地の東側では中世の溝や小穴等の遺構も検出されている。いずれの調査も限られた調査面積であることや攪乱の影響を受けていたため、依然として当遺跡における中世の様相は不明な点も多いが、今回の調査成果から、当該地及び周辺に中世の遺跡が展開している可能性が考えられる。

### 【参考文献】

- 財団法人浜松市文化振興財団 1996 『若林 村西遺跡』
- 財団法人浜松市文化振興財団 2005 『東若林遺跡』
- 浜松市教育委員会 2004 『有玉古窯』
- 浜松市教育委員会 2011 『平成21年度 浜松市文化財調査報告』
- 浜松市教育委員会 2012 『平成22年度 浜松市文化財調査報告』
- 浜松市教育委員会 2013 『平成23年度 浜松市文化財調査報告』
- 浜松市教育委員会 2014 『平成24年度 浜松市文化財調査報告』
- 浜松市教育委員会 2016 『平成26年度 浜松市文化財調査報告』
- 浜松市教育委員会 2020 『平成30年度 浜松市文化財調査報告』
- 浜松市教育委員会 2021 『令和元年度 浜松市文化財調査報告』
- 浜松市教育委員会 2022 『令和2年度 浜松市文化財年報』



1 調査区全景（北西から）

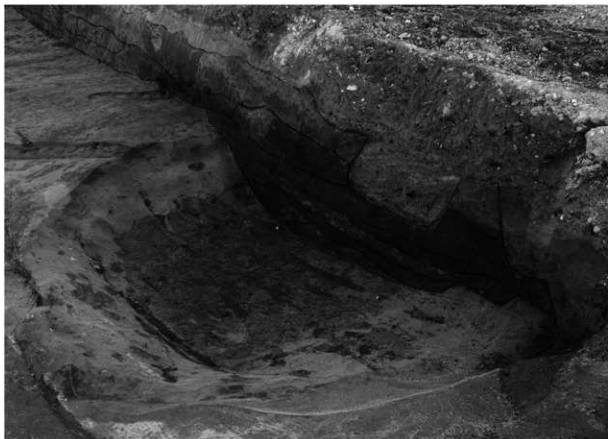


2 SD01完掘状況（北西から）

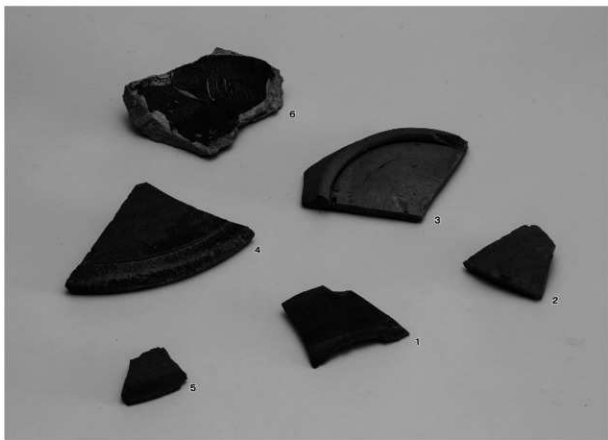


3 SK02完掘状況（西から）





1 SE01完掘状況（北西から）



2 主な出土遺物

# 報告書抄録

書名(ふりがな)	増楽遺跡 (ぞうらいせき)							
編著者名	川西啓喜							
編集発行機関	浜松市教育委員会 (浜松市市民部文化財課が補助執行) 浜松市市民部文化財課 〒430-8652 浜松市中区元城町 103-2 TEL (053) 457-2466 FAX (050) 3730-1391							
発行年月日	2023年3月24日							
遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
増楽遺跡	静岡県 浜松市 南区 若林町	22134	4-02-9	34度 41分 23秒	137度 41分 41秒	2021年 11月30日 ～ 12月14日	160㎡	校舎建て替え 工事に伴う埋 藏文化財発掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
増楽遺跡	散布地 集落	古墳時代 奈良時代 中世		溝 土坑 井戸 小穴	土師器 須恵器 陶器	7～8世紀の集落跡を確認		
要約	増楽遺跡は、浜松市南区の海岸平野上に位置する古代～中世の遺跡である。今回の発掘調査では、7～8世紀代の溝・土坑・井戸及び小穴を検出した。出土遺物は破片が少量のみであり、甕等の煮炊き具が含まれないことから、集落の縁辺部と考えられる。また、明確な遺構は検出されなかったが、中世の遺物も僅かに出土していることから、周辺に中世の遺跡が展開している可能性が考えられる。							

## 増楽遺跡

2023年3月24日

発行 浜松市教育委員会  
編集 浜松市市民部文化財課  
(浜松市教育委員会の補助執行機関)  
〒430-8652 浜松市中区元城町 103-2

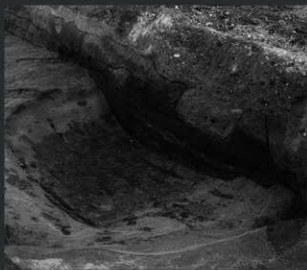
印刷 中部印刷株式会社



# Zoura Site

The 16<sup>th</sup> Excavation Report

A Report of Archaeological Investigation  
in Western Shizuoka Prefecture, Japan



March, 2023

Hamamatsu Municipal Board of Education